



◎地方土木主任官事務打合せ

五月二十二、二十三日の兩日道府縣土木部課長事務打合せが内務省第一會議室に於て開かれ河川道路港灣に關する重要事項に關し協議せられた。

◎地方土木主任官事務打合せ

全國道府縣土木部課長事務打合せが内務省に於て五月二十二、二十三兩日開催せられたので道路改良會港灣協會並に河川協會合同地方土木主任官一同を二十二日午後五時九ノ内帝國鐵道協會々館に招待し、事務打合せを開いた、晚餐の後水野道路改良會及港灣協會々長は「本夕は土木主任官會議の爲御上京の方々を恒例に依り道路改良會及港灣協會と新に設立せられた河川協會と共同して御招待いたしたる處斯く多數御來會を得たるは頗る満足の至りである。私は道路改良會及港灣協會々長として一言御挨拶を述べたる河川協會の方は更らに其代表の方が御挨拶されるのである。道路改良會並に港灣協會は何れも二十有餘年前に創立し土木局の外

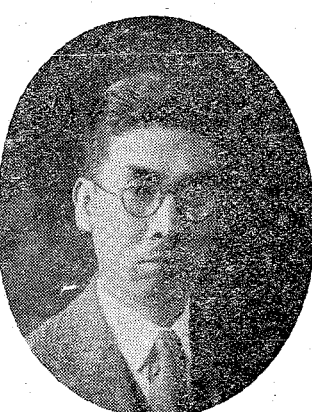
廓團體として今日の言を以てすれば表裏一體となつて土木行政の爲めに努力し來つた。回顧すれば道路改良會創立の當時即ち大正七、八年の頃は道路の舗裝の如き試験的に施工したる猶獨大の一小部に止まり實に嘆かはしき状態であつた。それで濫澤築一子爵床次内相其他の方々に依りて道路改良會が創立せられ道路改良の利益多大なるを述し今日より見れば小學校の兒童ですら知悉せる事を宣傳に努めた。港灣協會に於ても亦創立當時は今日の第一種港灣が僅に其築港に着手したるが如き状態にして船舶は殆んど埠頭に遠く碇泊し端舟によりて本船に乗込むといふ次第で海運上の不利不便は甚しきものがあつた。斯る沿革を経て今日の新日本國力を思ふとき斯界の先輩古市沖野原田等諸氏の苦心努力の容易ならざるものあるを思はざるを得ない、斯く先輩諸氏の遺功を偲ぶと同時に其後繼者たる各位に對し技術上は勿論施業上の研究努力を願はざるを得ない。今や東亞共榮國建設の爲め滿支兩國に於て已に我國土木技術者諸氏が進出せられ我國の爲め努力せられつゝある、念ふに我國土木關係者としては更らに一段の奮勵努力を要請せらるゝものがある、兩會固より赫々たる功績は見られないが所謂上意下達、下意上達の働きを爲し道路及港灣の土木事業發展上に寄與したることの少なくないこと、言ひ得る今後當會の活動發展は一に地方各位の御援助に待つ外の外ないのである。願くは一段の御協力あらんことをとの意を述べて挨拶とせられた、次で河

川協會中川副會長は堀切會長が旅行中である故に代つて御挨拶を述べる。河川協會の設立は數十年來世間の要請する所であつたが、諸種の事情に妨げられて其の實現を見るに至らなかつた。當局者の非常の盡力と各位の援助に依り客年十一月十六日其結成を告ぐるに至つた、爾來着々會務の進歩を圖り或は事業に或は豫算に其の決定を見會員も四百二十一名を數ふるのである。然し成立日尙淺きが故に其の發展は一に諸君の援助に待たざるを得ない。今回の御招待も河川協會單獨になす考もあつたが、其の時時なく道路改良會及港灣協會と共同して開催することとなつた。實に河川協會は諸君が作られたものなれば協會使命の重大なると直轄工事に、小中河川整理に又防水に其の爲すべき仕事の極めて多きと鑑み協會發展の責任は諸君の双肩にありと思ふ云々との主意を以て挨拶せられた、來賓を代表して西大阪土木部長は、潜越ながら御招待を受けた各位を代表して一言御挨拶を述べると前置し今回地方土木主任官事務打合會を機として道路改良會港灣協會河川協會の三會が開催され此の鄭重なる御招宴に列することを得るは寔に感謝に堪へない所である。水野會長閣下の御言葉に依れば道路と云ひ港灣と云ひ全く隔世の感がある。我國今日の躍進を見たるは土木事業の爲道路改良會港灣協會が存分に御盡力せられたるに由する所であらう。道路港灣の發展は我國の躍進を象徴する所であらう。職域奉公の誠を盡す爲に尙一段の指導鞭撻を希ふものであ

る。洵に變轉極りなき國情に在るの今日兩會御指導の下に微力を盡して各自の本分に努力せんことを期する。又河川協會は時代の要請に依り結成せられたるものとは思はるゝも時局柄當局各位の苦心努力の一方ならざるものあるは言ふを待たずして明かな所である。協會の使命の重大なるに顧みて更らに一段の御活動を庶幾ふ次第である。之が爲に私共亦奮つて微力を致さんことを期するものであるとの主旨を述べて答辭とせられ感會裡に敬會した。

◎幹事川上和吉氏

氏は明治三十八年二月十一日大阪市東區備後町一丁目十八番地に呱呱の聲をあげられ、大正十四年三月大阪高等學校文科乙類卒業



業昭和二年十一月高等試驗行政科合格同三年三月東京帝國大學法學部(政治學科)卒業同年四月千葉縣屬に任ぜられ八月社會局屬に轉じ同五年

九月北海道廳事務官(總務部庶務課長並學務部社寺部兵事課長)に轉じ同十年五月内務事務官(大臣官房都市計畫課兼鐵道事務官)となり同十四年島根縣書記官となり、經濟部長に補せらる。同十

五年七月廣島縣書記官に轉じ經濟部長に補せられ同十六年四月十

八日內務書記官道

路課長に任ぜられ

た。

◎幹事堀内 春宗氏

堀内土木事務官

の略歴は前號第二

十三卷第五號百三

四、鮮滿北支土木工事視察談(二〇分) 山田技師  
五、新工學士第一期訓練の經過に就て(三〇分) 山下技師  
第二百十九回技術談話會話題

昭一六、五、一六 午後一、三〇—四、〇〇

一、試驗所報告第五十九號發表の試驗結果に對する講演

(試驗所報告を配布し之に就きて行ふ)(各二〇分)

一、鐵筋コンクリート床版の載荷試驗並に之に基く設計示方

一木技師

2、中空壓縮の挫屈に關する理論的研究(第3報)

横田技師

3、コンクリートの熱的性質に關する研究(第2報)

島田技師

4、那珂川河口の漂沙に就いての實驗

本間仁氏

5、軸應力を考慮せる擔角撓度公式

佐藤技師

二、戰時戰域の道路に就て(一五分)

山田技師

三、北上川改修計畫(四〇分)

富永技師

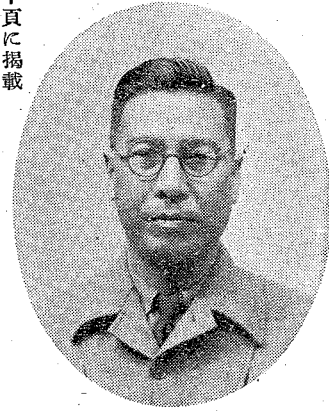
技術談話會前回講演要旨

內務省土木試驗所

第二一七回(昭和十六年四月十一日)

一、歐米主要大都市の水道水源の現狀に就て速報第三九號

竹内俊雄



十頁に掲載

◎成田理事

去四月二十日東京出發滿支視察中なりし本會常務理事成田土木

局長は用務を了へ無事五月十二日歸國せられた。

◎內務省土木試驗所談話會

第二百十八回技術談話會話題

昭一六、四、三〇 午後一、三〇—四、〇〇

一、餘水吐減勢裝置に關する實驗準備(二〇分) 横田技師

二、黃土、石灰混合物(灰土)の強度に關する試驗報告

福島技師

(黃土に關する第二報)(三〇分)

松尾技師

三、塘沽港築港計畫に伴ふ水理學的問題に就て(三〇分)

歐米主要大都市として英國は London, Glasgow, Birmingham, Liverpool Manchester, 佛蘭西は Paris, 獨逸は Berlin, Charlottdourg, Xamburg, Köln, 米國は New York, Chicago の一二市を選び各都市は水道水源を如何にして求めて居るか及給水量は幾何であるかを文獻によつて調査したものである。

二、鐵筋コンクリート片持版の試験結果に就て 一 木 技 師  
昭和十四年内務省土木局に於て鋼道路橋設計示方書案が發表されたが、該案中の鐵筋コンクリート片持版の設計に採用すべき有効幅に關する式がどの程度に實際と一致するか、又之により設計せる片持版が幾莫の安全率を有するかを實驗によつて明らかにせんとした。

試験は二應に對し設計せる長さ三米、スパン一・二米の片持版に就き、先づ載荷一應の場合の各點の撓みと鐵筋の應力とを測定し、最後に破壊試験を行つた。破壊試験の際も主要なる點の撓みと鐵筋の應力を測定した。破壊荷重は八・九噸であつた。試験の結果次の結論を得た。即ち荷重の小さな間は、有効幅は假定よりも小さいが、設計と基準となる破壊の状態に於ては、假定せる有効幅は實際とよく合つてゐる。

三、蘭印産天然アスファルト (Boeton Asphalt, Boeton Islanu, Calibes) に就て (豫報)

現今對米通商の逼迫により石油原料の輸入が制限され又一方輕金屬アルミニウムの製産が激増せんとし其製造に當り電極に多量のアスファルト系材料を必要とする關係上、アスファルトの需要が激増し、従つてこれが入手は一層困難となる状態となつた。其現状に鑑み蘭印 Calibes Boeton 島より天然アスファルト岩が日蘭商事により輸入される事となり從來の鋪裝用瀝青材料に代つて天然アスファルトを鋪裝工事に利用するの餘儀なき情勢に立至つた。

Boeton 島の天然アスファルト埋藏量は一〇億トン以上と認められ、從來は和蘭、白耳義諸國へ輸入され鋪裝に利用されてゐたが大戦後輸入が杜絶したので代つて本邦に輸入される様になつた。其原鑛石は凡そアスファルト分三七―三九%、鑛物質分五八―六一%より成る天然アスファルト岩であり、之より抽出したアスファルトは針入度 (S.S.C) 三―一〇、六一―一八、六五―七三程度のものにして又鑛物質は主に細目砂及び石灰石粉より成る。現島に於ては一日の荷役量は五〇〇―六〇〇應で日本船の入港可能である。

値段は現地渡し三五圓/應の見當であり、日本渡しは六〇圓以内/應の見込であり近日中に日蘭商事の手により本邦に入荷のある豫定である。

當試驗所では今後之れに關する材料及び鋪裝工法に就て試驗をなす豫定であり、豫報として先ずこれが概要に就て説明を行つたのである。

四、セントローレンス河改修問題 鈴木東京土木出張所長

セントローレンス河の特性を述べ、オンタリオ湖モントリオール間延長一八一哩の改修計畫の全貌を説明した。

◎近刊圖書雜誌(寄贈交換)

◎昭和十四年度直轄工事年報(内務省土木局)

(國の直轄に關する工事につき治水、港灣道路等の工事概要を統計したるもの。其道路は國道一號線中箱根、沼津、富士川、興津、袖師、名靜、愛知第二、第三、參宮、國道二號線中兵庫、岡山、廣島、山口、關門、小倉、熊本、國道三號線中大分、宮崎、國道四號線中蒲生、越ヶ谷、幸手、雀安、宇都宮、宮城、岩手、國道五號線中秋田、青森、國道六號線中水戸、滋賀、福島、國道八號線中山梨、國道十號線中群馬、第三埴科、第四埴科、鶴岡、第二飽海、國道十一號線中親不知、高岡、國道十二號線岐阜、名敦、石川、國道十五號線中京都、奈良、和歌山、國道十六號線中大阪、和歌山、國道十八、二十號線中鳥取、國道二十三號線中香川、國道二十號線中西條、國道二十五號線中佐賀、長崎、國道三十二號線中廣島、國道三十三號線中佐世保、國道三十五號線中敦賀、國道三十六號線中新京濱の改良及

新工事に關し掲載す)

◎自警(四月號)

◎水利と土木(四月號)

◎土木學會誌(第二七卷四號)

◎大阪商工會議所月報(四月號)

◎三田學會雜誌(四、五月號)

◎港灣(第一九卷五號)

◎法律時報(五月號並附錄第七六議會の新法律)

◎セメント界彙報(第三九八號)

◎警察協會雜誌(五月號)

◎都市問題(第三二卷五號)

◎鐵道之研究(四月號滿洲鐵道總局)

◎汎交通(五月號)

◎電氣通信學會雜誌(第二一七號)

◎聲國精神(五月號)

◎東大陸(五月號)

◎觀光聯盟情報(第三卷五號)

◎都市公論(五月號)

◎地方行政(日文版五月號)

◎石油時代(五月號)